報徳@なう
発行人：本岡俊郎

ひとり親家庭等の子どもの食事等支援事業

長い名称ですが、この事業は今年４月に発足した子ども家庭庁が実施している、生活が苦しい家庭の子ども達に食事や食品を提供する助成金の事業です。６月にこの事業を実行する「中間支援団体」に応募して認められました。報徳食品支援センター単独では力不足なので経験の深い東京都日野市のフードバンクＴＡＭＡとコンソーシアム（共同事業体）を組みました。我々の他に認められた団体は、「むすびえ」「全国食支援協力会」などの大きな組織が８団体でした。

応募した目的は、これまでの経験を生かして、主に神奈川県下で生活が苦しい方々をもっと支援したいと考えたからです。この１年の食品価格を始めとする物価の高騰は、多くの生活困窮者を生んでいます。そのような方を助ける働きができるこども食堂等の団体に機会を提供したいと考えました。また、助成金を申請するのが難しい外国人困窮者支援団体にも案内しようと思いました。

もう一つの目的は、この申請を行う事で所定の運営資金を得る事が出来ます。資金調達に苦労している我々にとって大きな財源になります。

８月上旬に応募の案内を始めて、10 日から 20 日まで申請書を受け付けました。助成の内容は、お米と食品の提供にしました。お米は新米プラス食品で市価一万五千円相当のセットを１団体最大 200 セット提供します。お金での助成はしませんので申請書の内容が簡単で、書きやすくしました。県下の子ども食堂ネットワークや外国人支援団体の上部組織「移住連」などの協力も得て、より広い範囲の対象者へ案内をすることができました。申請受付期間がお盆と重なったため、出足は低調でしたが締切り期日間近に申請が集中して、目標 80 団体に対して沖縄県から茨城県まで 150 団体以上の応募がありました。セット数は一万五千セットの予算を大きく超える二万四千セット。審査の結果 102 件を採択することが出来ました。

９月上旬から採択団体に発送が始まり来年１月まで毎月発送しますので、私達の仕事は続きます。

猛暑乗り切り大作戦



学校が夏休みになると、給食が食べられなくなる。家計が厳しい家庭では、昼ごはんが食べられない子どもが出てくると、信じられないような話が規模の大きな支援団体のブログなどで伝えられてくる。小田原では実際にそのような話を聞いたことはないが、それに近い状態にある家庭は少なからず、あると思われる。食品価格の高騰は、低所得者の生活を一層苦しくしている。そこで、このような家庭を念頭に置いて、食品支援の告知活動をした。タウンニュース小田原版にキャンペーンの記事を掲載してもらい、同時に電子版にも載せてもらった。生活が苦しく支援を必要としている家庭を把握しているのは、やはり市役所・町役場の福祉担当部門、県の足柄上郡、下郡合同庁舎生活保護担当部門、社会福祉協議会などであり、それらの事務所にはキャンペーンの趣旨を説明して、該当者がおられたらご案内くださいとお願いしました。

結果はどうだったか？予想はしていたが、タウンニュースは新聞に折り込まれて配達されるので、新聞を購読している人にしか読んでもらえない。その読者の知り合いに該当するような人がいれば情報が伝わるだろうと期待したが、反応は無かった。しかし無償で閲覧できる電子版をみて援助を求めてきた人が出て来た。しかし成果があったと実感したのは、福祉の現場で働く役所や社協の方達からの依頼だった。これは当センターにとってとても有難いことでした。本当に必要としている人に届けること、報徳食品支援センターの本来の目的とする活動です。

学校が始まるまでの1か月間で食品をお渡しできた家庭は 30 件になった。

給食の影響以外に物価高騰、特に電気代が家計を圧迫しています。今夏の猛暑の中、エアコンを付けないで生活をすることは、危険を伴う、しかし電気代の支払いが出来ない、切り詰めるところは食費になってしまう、そんな家庭からの SOS に、電気が止められてしまう前に食品の支援を！と同様の連絡が数件届きました。自ら連絡をしてくる方は、支援できますが、本当に困っている家庭を探すのは、いつもながら難しいと改めて実感しました。このような働きかけをこれからも繰り返すことで、次第に効果的な方法を身に着けていくと思う。

日本一の干物屋さん

小田原市中村原に本社を置く元気企業「山安」さんより、アジの干物を大量にいただくことができました。去る6月の下旬、訪問した折に山田会長、山田社長にお会いすることが出来、当センターを PR してきました。すると嬉しいことに一週間も経たないうちに 20 箱（320 パック）のアジの干物が届きました。また地元の企業と接点を持つことが出来ました。庶民の味、頂いた方々の笑顔を思うと我々スタッフも一段と力が入り嬉しくなりました。



届いたぞ～魚!!

箱根町社会福祉協議会事業係

今回報徳食品支援センターより干物が届き、サロンや集いの場を開催している所へ届けました。地域の方は思いもよらないと届きものに歓喜！「この干物の種類はね～」や夕飯の一品になるわ！」と談笑されている姿が印象的でした。翌日以降、「油がのっていて美味しかった！また次もあったら嬉しい！」と、食された方々から次々と感想と連絡が入り何故か社協の職員まで嬉しくなりました。

私たち箱根町社会福祉協議会は、報徳食品支援センターから食糧支援をいただいていますが、ただ食料を渡すだけでなく、「何か困りごとはないですか？」と話しを聞く機会を作っています。皆さんにとって気軽に相談するきっかけになれたらと考えています。

地域での助けを合う共助の力が弱まってきますが、同時に地域で支援する輪が広がっていると感じています。何か特別なことをするのではなく、今できることの延長で「プラス1」の支援を継続させたいです。



アイスクリーム



全国食支援活動協力会経由でロッテのアイスクリームを 150 箱いただきました。

夏休み中のこども達にとって最高のプレゼントです。

しかし、この酷暑の中で無事子ども達に届けるには、どうしたら良いか。　報徳食品支援センターには、床面積一坪ほどの冷凍庫があり、保管には心配ないのですが問題はその先でした。ドライアイスを入れて運べば簡単ですが、小田原市内で唯一売っている店が、設備故障で販売していない。結局、冷凍ストッカーを持っている子ども食堂には報徳食品支援センター所有の軽の冷凍トラックで運びました。また、クール宅急便も何度か使いました。市営住宅で高齢者を対象に食品配布会をした時には、軽トラを停めて、冷凍庫を約二時間動かし、一個ずつお配りしました。九月三日の小田原市母子会の食品配布会場でも配りました。お母さんと一緒に来た子ども達は大喜びでした。あきらめた子ども食堂さんもありましたが、この日で、いただいた三千三百個をほぼ配り切る事が出来ました。ロッテさん来年夏もよろしくお願いします。